

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700543		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットさつき	ユニット名	つつじ
所在地	宮崎県北諸県郡三股町大字樺山 4845-8		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	平成22年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571700543&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成22年8月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基に、利用者が、地域の中で生き活きと生活できるように、申し送りや会議の中で話し合い、その人にあったケアの実践を行っている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域代表の参加をもらっている。又、地域の行事等への参加や施設内行事等への参加ももらい、交流を図っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告などは行っていた。しかし 地域の方の見学や地域会合への参加を計画していたが、実践に至らなかった。今後は実践していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて取組について報告や意見交換を意通じ、サービス向上につなげている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場訪問時や運営推進開示参加時等に、事業所の運営や現場の状況等随時相談している。			
6	(5)	、bvhnbvhbvbvbvcvbvbv444vvc76yss 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人の意志を妨げる行為は、身体拘束である事を、職員全員で理解し、どのようなケアを行っていけばよいか随時話し合っている。玄関に感知センサーを導入して、出来るだけ鍵をかけないケアに努めている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議・ケア会議開催時に人権尊重・虐待についての会年を理解し合い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について冊子などを活用して、理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明や契約書について細かい説明を実施、又、疑問や質問についてはその都度説明、理解を求めて、納得のうえ署名捺印を頂く事としている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族へのアンケート実施や施設内苦情についてのポスター掲示、又、退所があった場合にもケアについての意見収集を行っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のスタッフ会議等で、勤務体制・その他について意見提示を求め、改善に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回、個別面談を行い、本人から勤務状況についての要望等を聴き、資質の向上や資格取得へのなげかけなど行っている。随時、職員とコミュニケーションを図る事で職員の状況把握に努め、勤務の継続を図っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修担当部問が外部講師を招いての講義などに積極的に取り組んでいる。又、法人外での研修も随時紹介、参加を勧めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内のGH同士の会議を定期的に行ったり、都城市・三股地区GH連絡協議会会議参加を行う事で、情報収集を図った。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、家族からの話だけでなく、本人に面会・意向などアセスメント・特に本人の気持ちを重視して、マンツーマンでの対話などに重点を置いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず相談時、現在の相談者の状況や気持ちの受容を行い、安心してもらえるように努めている。その後施設についての見学を進めたり、介護についてのアドバイス・専門機関の紹介等行っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の状況の把握にまず努め、現状の解決策を色々な面から、考え、擬態的に情報提供等行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者は人生経験豊富な方々であり、ただケアを提供するだけでなく、一緒の時間を共有し、お互い協力し合いながら、楽しい生活を維持していける様に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を月一回お便りで報告したり、電話や携帯画像で送信して、家族に伝え、面会を進めたり、年間行事への参加をなげかけ、家族にも、介護についての意識を持っていただくように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に近況の様子を伝えながら、自宅帰省や帰省時の墓参り等行っている。近況の様子を伝えながらキーパーソン以外の面会など見られた時は、関係が継続していける様な雰囲気づくりや、なげかけを行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や状態を把握した上で、席のセッティングなどを行いトラブル予防に努めている。又、利用者が孤立しない様に、話しかけを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族への電話や入院先への訪問・対処後のサービスへの助言や情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月ごとのアセスメントで本人の思いや暮らしへの要望を聴き取り、把握に努めている。聴きとり時、本人の口調や表情等に気配りを行い、真意の引き出しに努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前調査・センター方式のアセスメントにて情報収集を行っている。又、入所後も随時本人家族よりの聞き取りを継続している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の徹底や、観察簿記入による、食事・排泄などの細かい記入、又、口頭や申し送り帳による伝達など、情報の共有を行い、心身状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制によるアセスメント聴き取りや、面会時の家族への聴き取り・スタッフ会議や申し送りなどでの情報交換を行い、計画作成にいかしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録形式を使用、時間を追っての状態変化や特記の把握を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の行事参加や、主治医以外の受診、ボランティアの活用など、本人家族の要望などを把握しながら、生活を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	所在地域のお祭り参加や、施設内行事参加をもらったり、散歩時、地域の人と関わりを持ったりと交流を図れるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医への主治医変更については、本人家族に十分な説明・納得の上に行っている。又、主嘱託医以外の専門医受診も主治医・家族と相談の上行っている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、健康管理や医療と連携を行うなど、医療面での充実を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態変化により入院が発生した場合、必ず職員が付き添い、状況把握に努めている。又、家族、医師と状況について随時連絡を行い、入院によって家族が不安にならないように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設ではターミナルケアを行っていない為、施設申し込み時、重度化や終末期についての施設の方針を説明・理解を求めている。状態悪化時は主治医との連携を図りながら、本人家族と話し合いを持ち、今後の方向性を検討、結果をスタッフ全員で共有している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会での救急時の対応等を検討実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練実施や、非常食の準備など、災害時を想定して準備している。地域の協力体制もある。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日に業務の中で、排泄や入浴時などプライバシー等への配慮に努めてはいるが、複雑な業務の中では不十分な面が時折見られる。その都度、指導に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必要なら、いくつかの選択肢を提示して、選んでもらいやすいような状況を提供したり、相手に合わせた説明方法を行い、本人が決められるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課について本人の希望を聞き取り、拒否が強い時は、中止するなど、本人の希望に沿って提供しているが、家族や主治医の意見も含めて身体機能低下を防ぐ為の日課などへの参加は、出来るだけしていただくように行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着る服を決めたり、いくつか提示して決めてもらったりしている。希望された時は美容室へ言ってもらっている。又、外出時や、行事等、本人が希望時には、化粧もしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容については、法人関連事業のほうが行っているが、施設での盛り付けや簡単な調理などは行っている。又、おやつ作りや近所からの頂き物での調理は随時行っている。食材盛り付けや茶碗拭きなどは可能な限り参加していただいている			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えたメニューの実施や観察簿に食事や水分摂取量について記入し活用している。又、スタッフも同じ物を食べる事で、食事の時間を共用している。年に2回ほど、本人の嗜好に沿った外食へ出かけている。又、お茶会や家族参加の食事会などの行事を行い、食べる楽しみを持ってもらっている。本人の摂取状況に沿った食事形態を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・口腔ケアを行っている。週に一回は薬剤による洗浄を実施している。定期的な歯科検診実施、必要時は受診を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレ使用を実施している。本人の状況にあった誘導の工夫や排泄用品の活用を行い、可能な限り、自立に近づける排泄ケアの実施に努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	観察簿により排便チェックを行い、散歩やレク参加を促す事での腸の運動促進や、排便間隔の把握による、便通を促す食品の摂取や牛乳の飲用・排泄時の腹部マッサージなど、毎日の観察簿を基に排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週6日、季節や気候に配慮して入浴を行っている。入浴順番は個々の意向や身体状況を考慮して決めている。又、入浴時のプライバシー確保に心がけている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気候に沿った寝具や衣服の調節・入眠時間等を設定している。又、夜間訪室時、本人が安心できるような声かけを行い、入眠時の環境にも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース会議実施時に利用者の疾患や薬の処方状況について検討したり、薬変更時は、連絡帳や口頭での申し送りなどを行い、スタッフ全員での情報共有に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴、得意な事等を把握し、発揮できるよう工夫している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の外出希望については、家族に相談を行い可能な限り実施している。地域住民の方からの協力の申し出はあるが、実際の外出支援に密に繋がってはいない。			

自己	外部	項目	自己評価	つつじ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年2回程度の買い物ツアー実施時は家族に了解の下、衣服等の買い物を行っている利用者はいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方家族への手紙や電話にてやり取りを行っている。年賀状などは可能な方は書いてもらうように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示物・花瓶の花や鉢植え等、季節を感じられるような工夫を行っている。光や音についても利用者に合わせて調節している。トイレなど利用者が分かりやすいような工夫を行い、本人の混乱の軽減を図っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には個別や数人用のソファが置いてあり、自由にテレビ鑑賞を行ったり、会話できるようになっている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はたたみの部屋で落ち着ける雰囲気になっている。入所時本人が使用していた家具や家族の写真等を持ってきてもらい馴染んだ環境作りに努めている。写真や自分の製作物なども飾っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の癖や身体状況の把握を行う事で、臨機応変にケアの変更を行う事で対応している。利用者の状況を考慮した家具の配置や、排泄誘導の工夫などを行っている。			